

第3章 アンケート調査結果の概要

1 アンケート調査の目的

平成 25 年4月に施行された「障害者総合支援法」第 88 条(市町村障害福祉計画)において、市町村が計画を作成するにあたっては、障害者等の心身の状況やその置かれている環境その他の事情を正確に把握した上で、これらの事情を勘案し、計画を作成するよう努めることとされています。

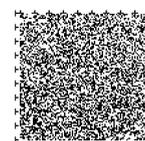
また、平成 28 年6月に改正された「児童福祉法」第 33 条の 20(市町村障害児福祉計画)では、市町村は、障害児の実態を正確に把握した上で、これらの事情を勘案して計画を作成するよう努めることとされています。

このことから、「障害福祉計画・障害児福祉計画」を策定する際には、事前にアンケート調査やヒアリング調査を実施し、障害者及び障害児等の実態を把握することが必要とされています。

富士吉田市では、市に暮らす障害者及び障害児等の実態や意見・考え方を確認し、課題を明らかにし、「障害者計画・第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画」策定の基礎資料とすることを目的にアンケートを実施しました。

2 調査期間と対象者、発送数、発送方法

分野	内容
調査期間	令和5年9月 10 日～28 日
対象者	市内在住の「身体障害者手帳」「療育手帳」「精神障害者保健福祉手帳」所持者
発送数	2,138 人
発送方法	郵送配付・郵送回収 ※視覚障害者へは聞き取り調査



3 調査の内容

設問分野	調査内容
回答者の属性	性別、年齢、手帳の種類と程度 同居者 生活場所 など
将来に関する事柄	将来暮らしたい場所 など
日常生活に関すること	日常生活での困りごと など
障害福祉サービスに関すること	利用状況と今後の利用希望
災害に関すること	助けてくれる人 など
移動に関すること	公共交通機関(タクシーなど)の利用について など
療育・教育に関すること	子どもの療育・教育で困っていること など
雇用・就労に関すること	就労状況 など
成年後見制度に関すること	制度の利用希望 など
権利擁護に関すること	差別経験の有無 など
自由意見	自由記載

4 回収状況

配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
2,138	1,248	1,240	58.0%

※有効回収数は、回収数のうち無効票・白票等を除いた数。

5 アンケート結果中の記号等について

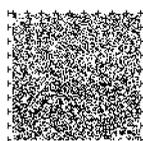
(SA)・・・単一回答(Single Answer)の略。選択回答は1項目のみ。

(MA)・・・複数回答(Multi Answer)の略。回答する選択肢の数に制限がある場合がある。

n・・・回答者数(number)を表す。「n=100」は、回答者数が100人ということ。

※ アンケート結果の数値は小数点第2位を四捨五入しており、単一回答であっても合計が100%にならない場合がある。

※ 複数回答の場合は合計値が100%にならない場合がある。

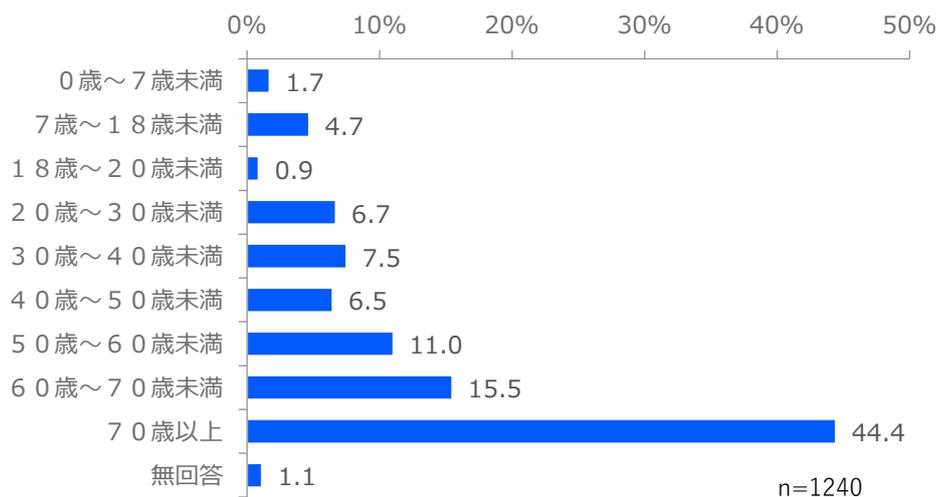


6 アンケート結果

■ 回答者の属性

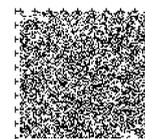
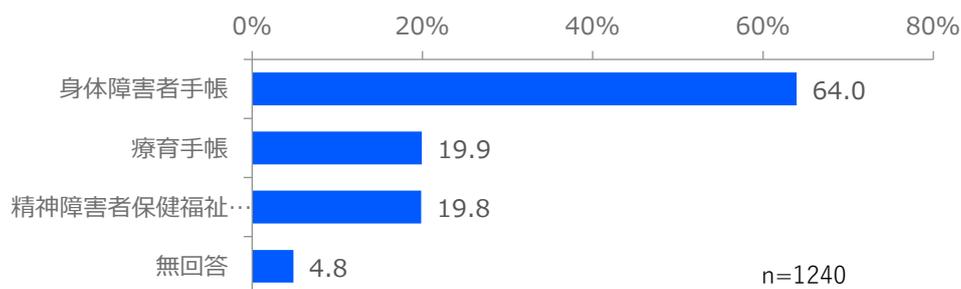
【年齢】

回答者の年齢は、「70歳以上」が44.4%と最も多く、次いで「60歳～70歳未満」の15.5%が多くなっています。



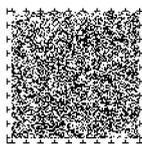
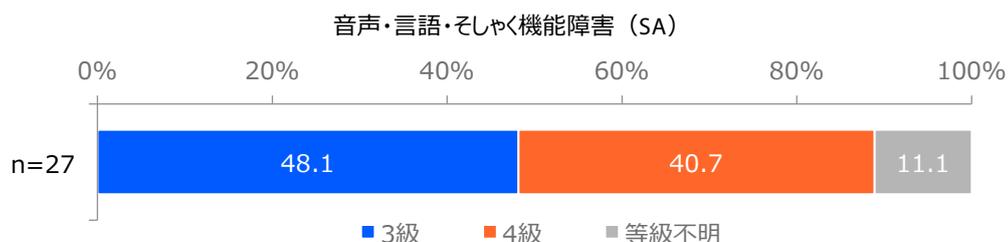
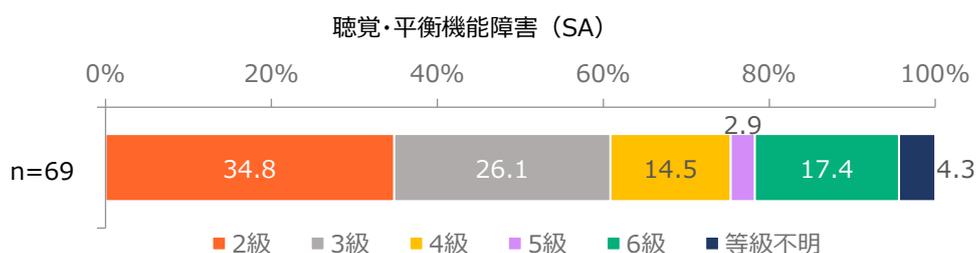
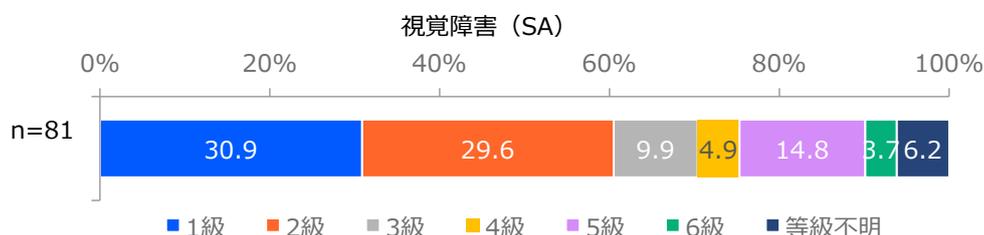
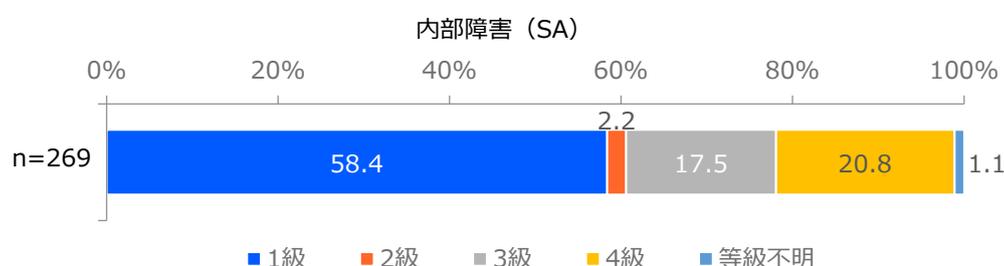
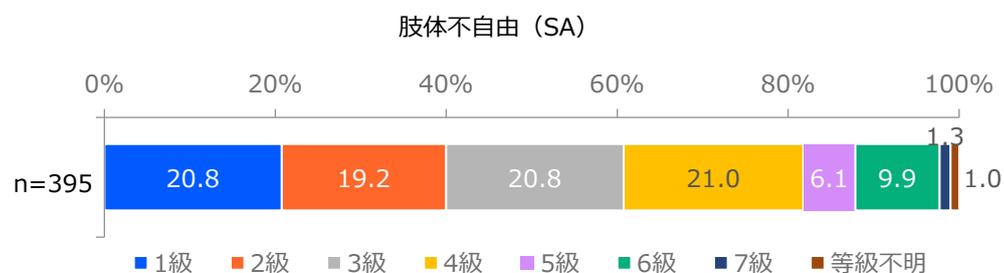
【手帳の種類】

所持している手帳では、「身体障害者手帳」が64.0%で最も多くなっています。



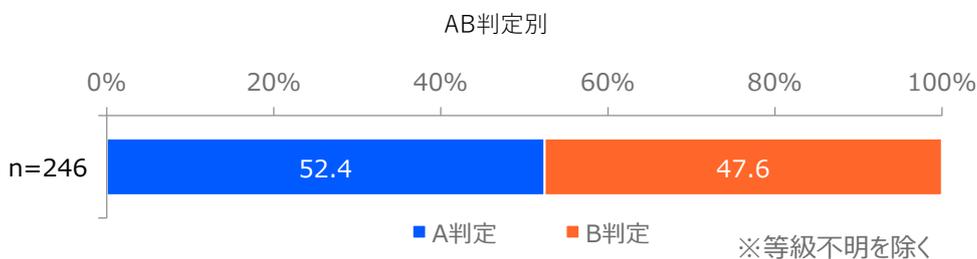
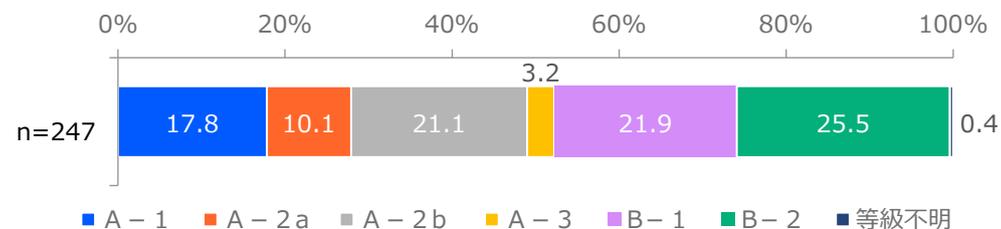
【身体障害者手帳・等級】

身体障害者手帳の区分ごとの等級は、所持者数が最も多い「肢体不自由」では1～4級までそれぞれ2割前後となっています。また内部、視覚、音声・言語・そしやく機能障害では「1級」が最も多くなっています。

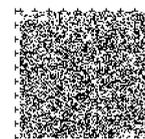
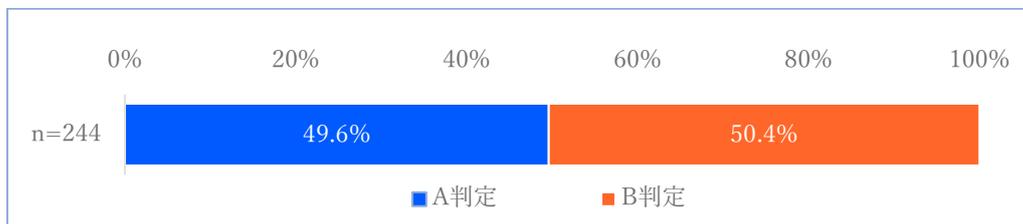


【療育手帳・区分】

療育手帳の区分では、「B-2」が25.5%と最も多かったものの、A、B判定で分けると重度のA判定のほうが多くなっています。前回アンケートと比べても重度のA判定がやや増加していることが分かります。



【参考：前回アンケート】

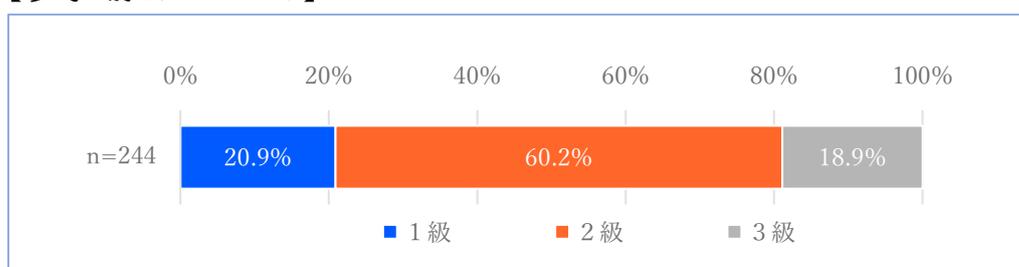


【精神障害者手帳・区分】

精神障害者保健福祉手帳の程度では、日常生活が著しい制限を受ける2級が最も多くなっています。また、前回アンケートと比較すると、日常生活若しくは社会生活が制限を受けるか、又は日常生活若しくは社会生活に制限を加えることを必要とする程度である3級が増えています。

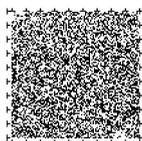
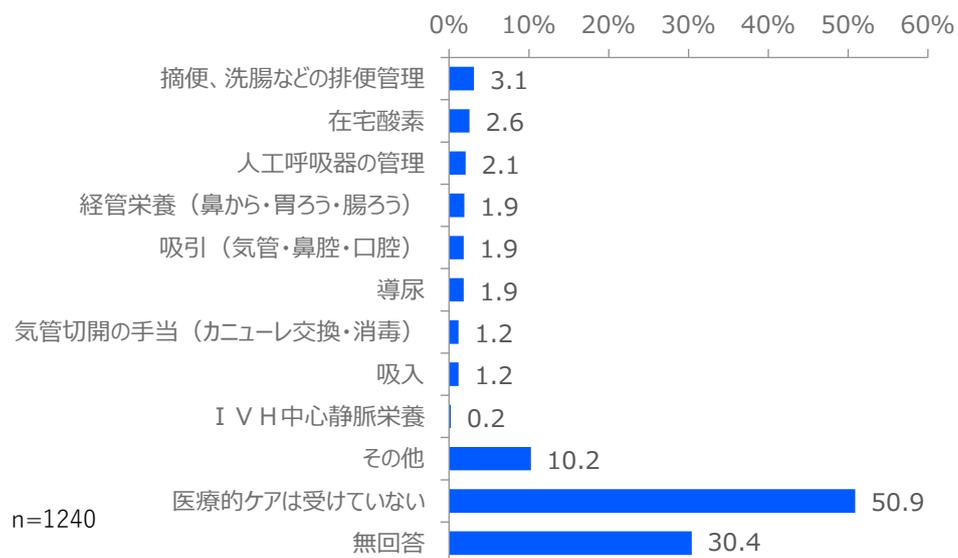


【参考：前回アンケート】



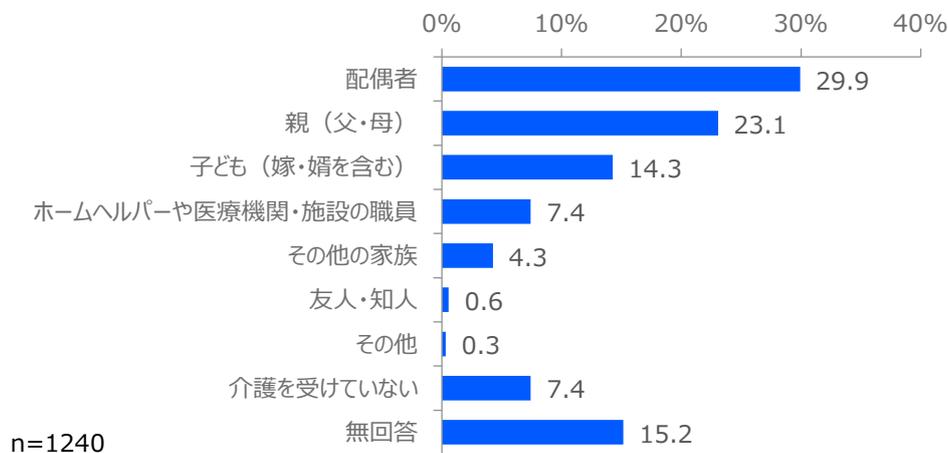
【日常的に医療的ケアを受けているか】※複数回答

日常的に受けている医療的ケアについては、「医療的ケアは受けていない」の回答が50.9%で最も多くなっています。受けている内容については「排便、洗腸などの排便管理」が最も多く、次いで「在宅酸素」が多くなっています。



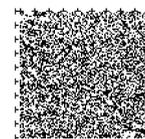
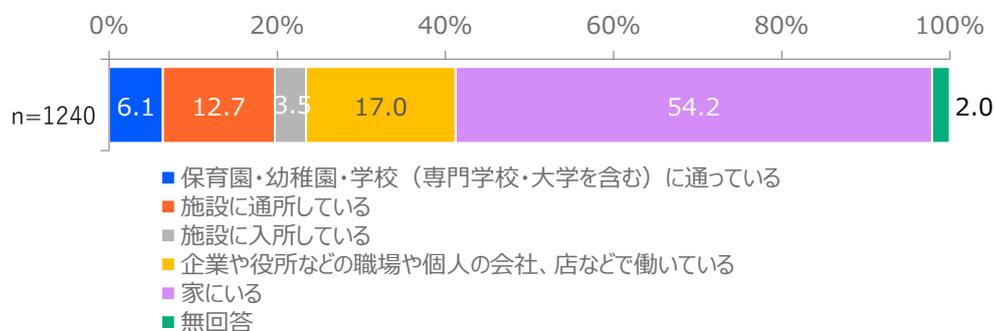
【主な介助（介護）者】※複数回答

主な介助（介護）者は、「配偶者」が最も多く、次いで「親（父・母）」が多くなっています。

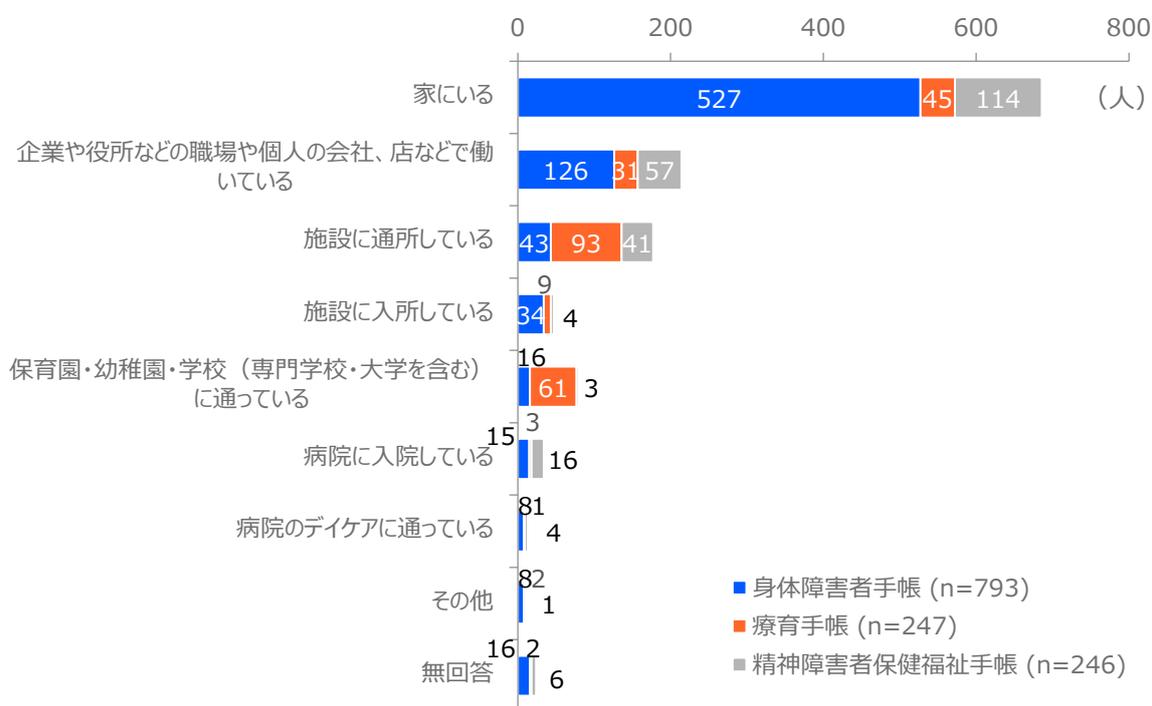


【日中主に過ごす場所】

日中を過ごす場所については「家にいる」が 54.2%で最も多く、次いで「企業や役所などの職場や個人の会社、店などで働いている」の 17.0%、「施設に通所している」の 12.7%が多くなっています。

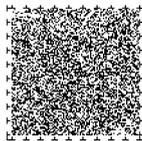
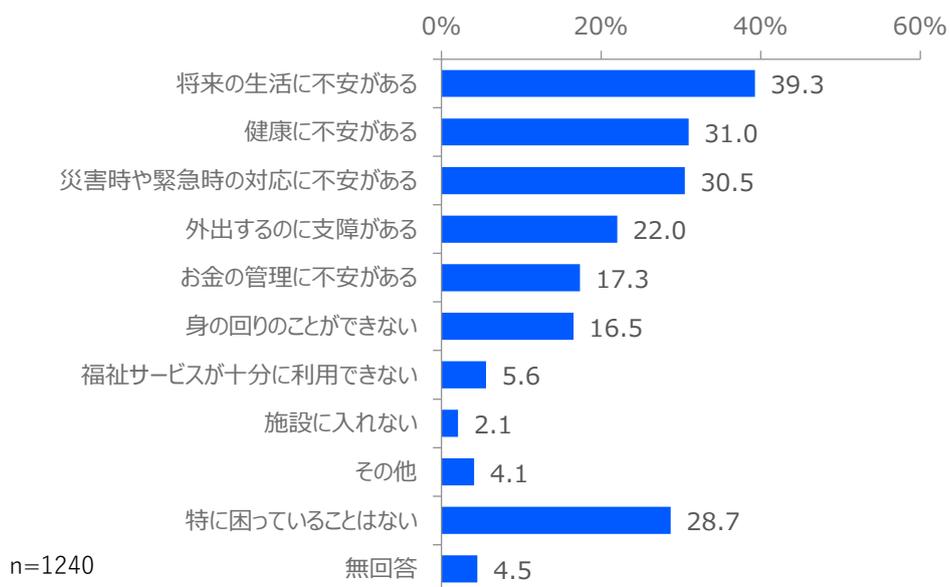


【日中主に過ごす場所：手帳別・実数】



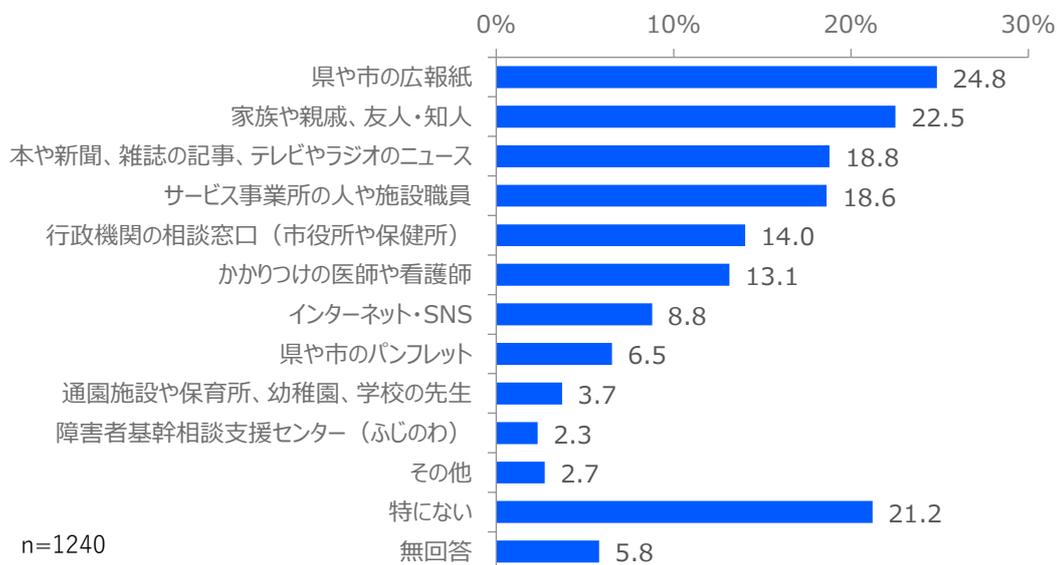
【日常生活での困りごと】※複数回答

日常生活での困りごとについては、「将来の生活に不安がある」が最も多く、以下「健康に不安がある」「災害時や緊急時の対応に不安がある」と続いています。



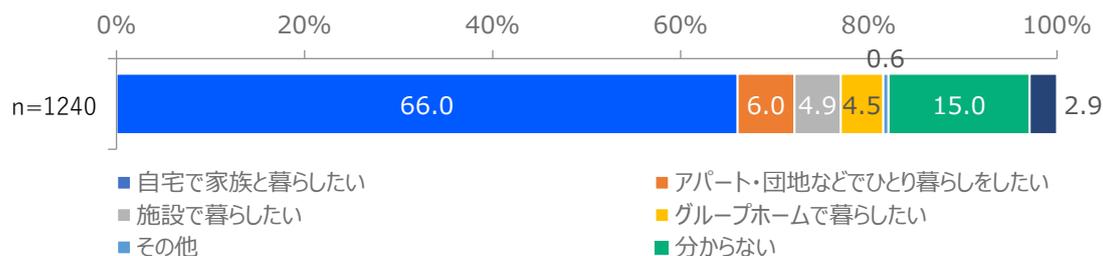
【福祉サービスの情報の入手先】※複数回答

福祉サービスの情報源については「県や市の広報紙」「家族や親戚、友人・知人」「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」が多くなっています。また、「特にない」の回答も多くなっています。

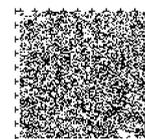
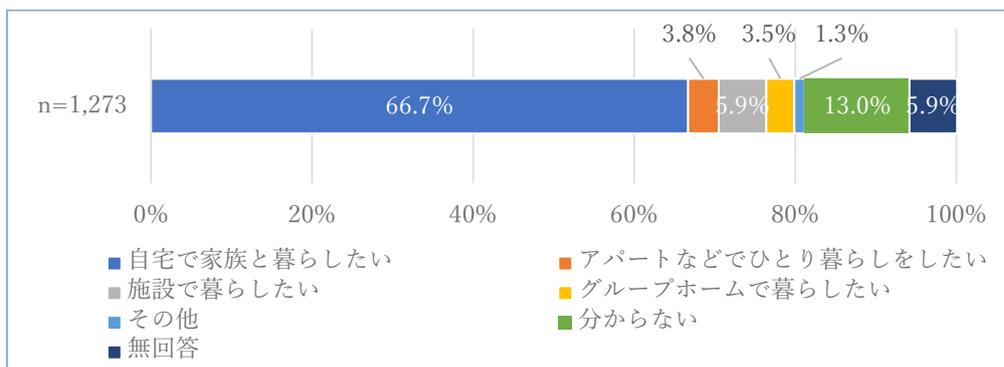


【将来暮らしたい場所】

将来暮らしたい場所については「自宅で家族と暮らしたい」が 66.0%と最も多くなっています。前回アンケートと比較すると、「アパート・団地などでひとり暮らしをしたい」が 2.2 ポイント増加しています。

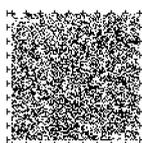
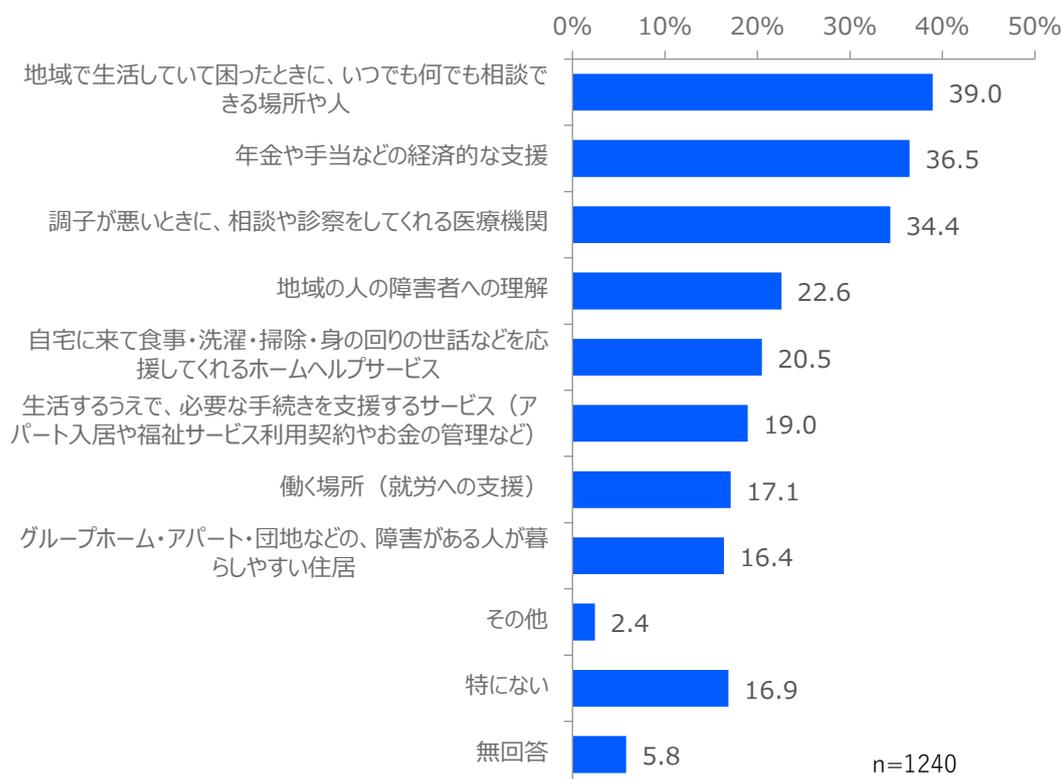


【参考：前回アンケート】



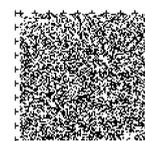
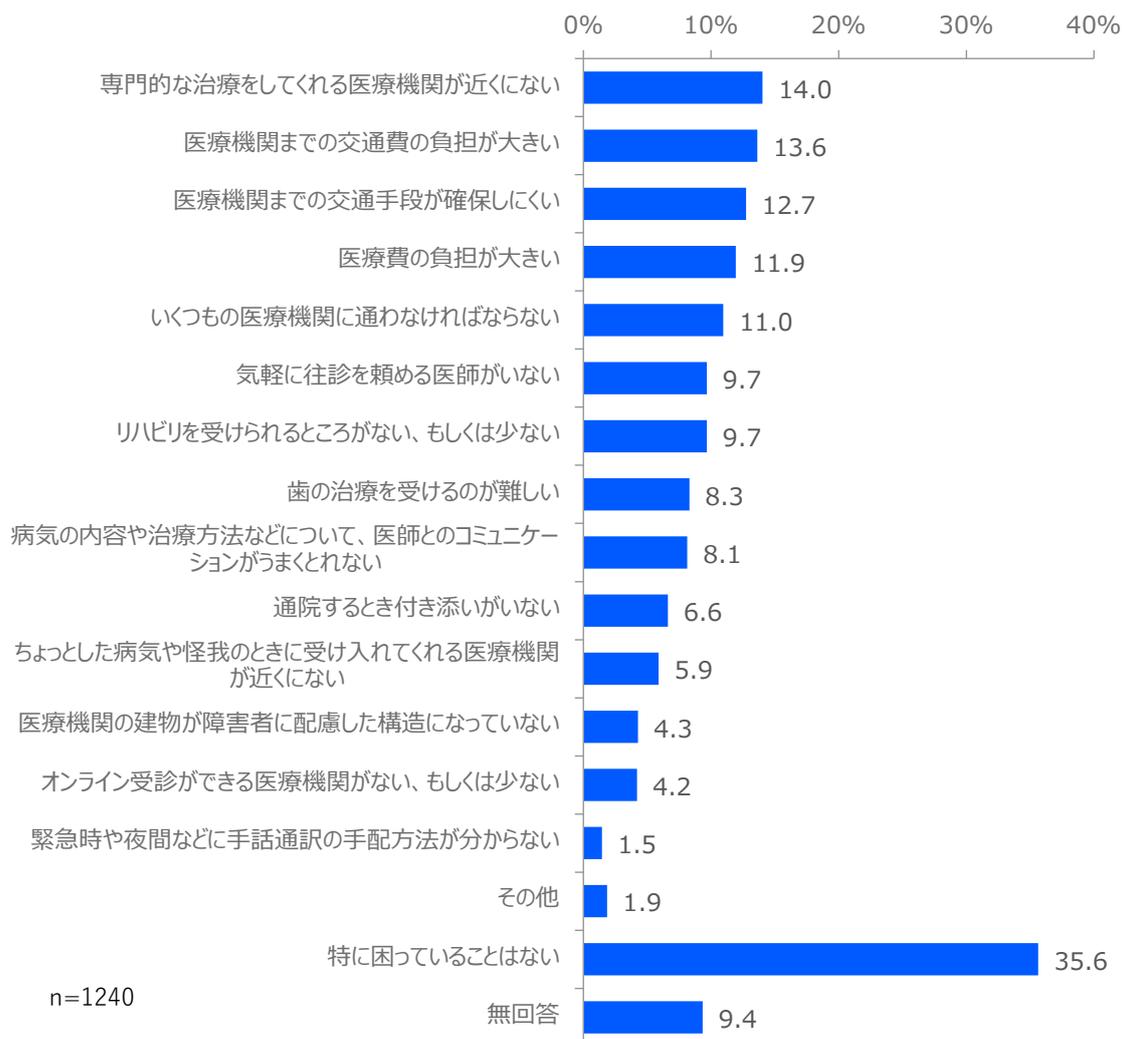
【地域で生活するために必要なこと】※複数回答

地域で生活するために必要なことについては、「地域で生活していて困ったときに、いつでも何でも相談できる場所や人」「年金や手当などの経済的な支援」「調子が悪いときに、相談や診察をしてくれる医療機関」が多くなっています。



【医療のことで困っていること】※複数回答

医療のことで困っていることについては、「特に困っていることはない」の回答が最も多くなっています。困っていると回答した項目では、「専門的な治療をしてくれる医療機関が近くにない」が14.0%で最も多く、次いで「医療機関までの交通費の負担が大きい」が多くなっています。



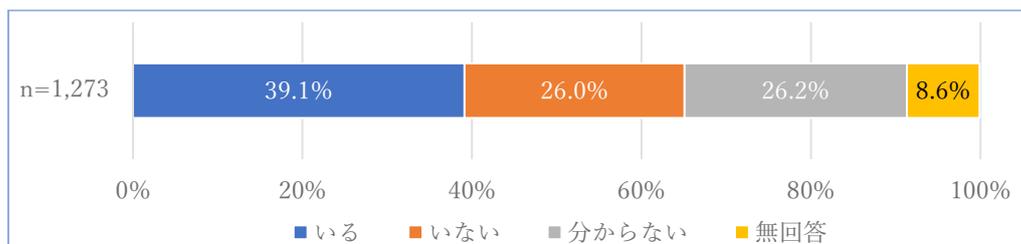
【助けてくれる人】

困ったときに助けてくれる人については「いる」が34.4%、「いない」は30.2%、「分からない」は28.4%となっています。「いない」「分からない」を合わせた「助けてくれる人が不明」は、6割近くとなっています。

また、前回アンケートと比べると「いる」が減少、「いない」「分からない」が増加しています。

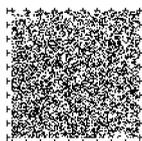
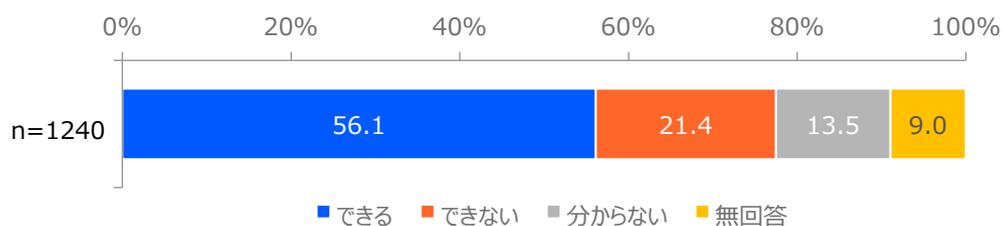


【参考：前回アンケート】



【公共交通機関（タクシーなど）の利用】

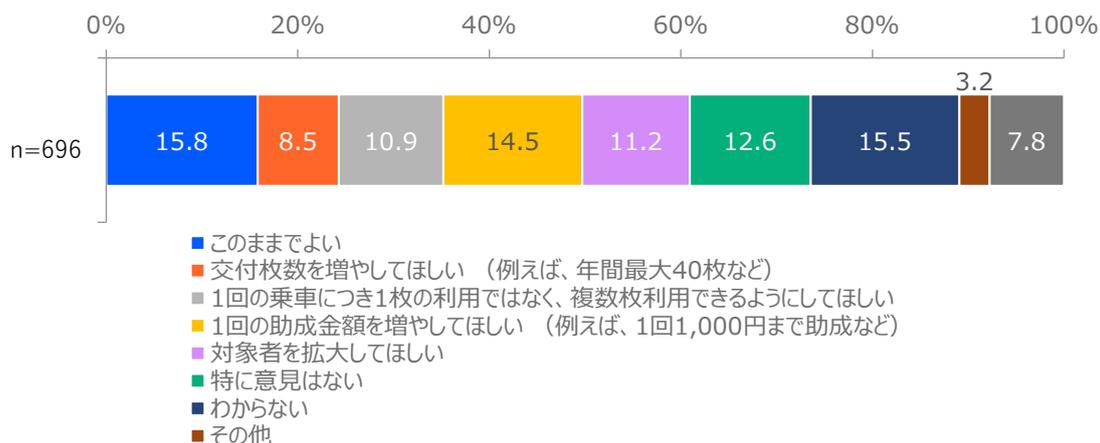
公共交通機関（タクシーなど）の利用については、56.1%が「できる」と回答しています。



【福祉タクシー券利用改善希望】

富士吉田市福祉タクシー券利用助成事業（福祉タクシー券）」の利用改善希望については、「このままでよい」が最も多く、次いで「わからない」が多くなっています。

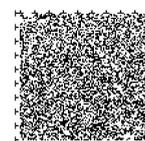
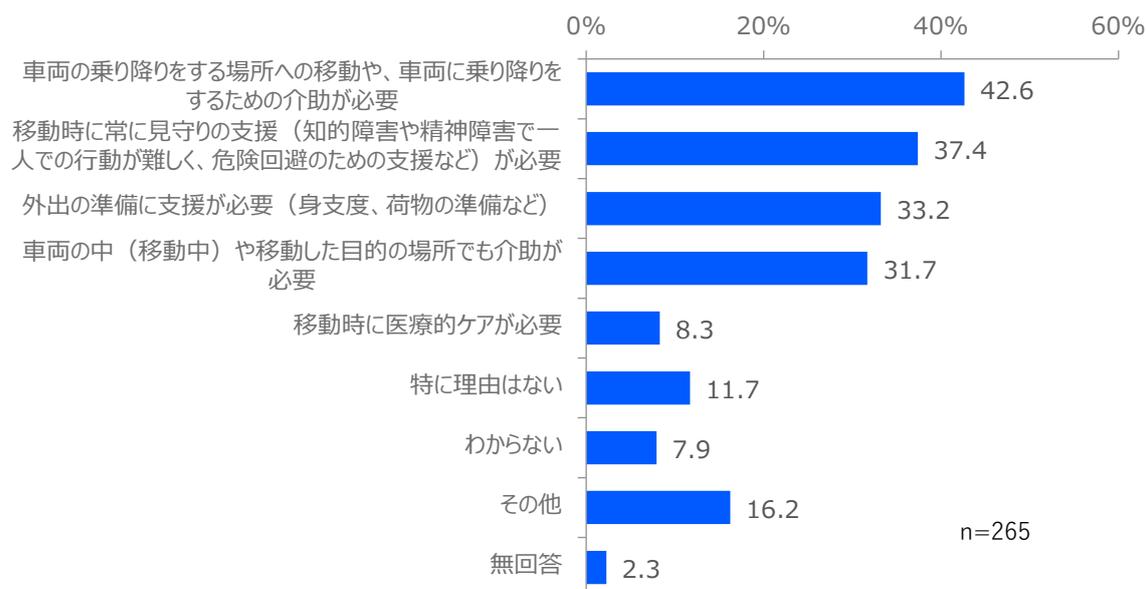
利用改善案として多かった項目は「1回の助成金額を増やしてほしい（例えば、1回1,000円まで助成など）」「対象者を拡大してほしい」などとなっています。



※公共交通機関を利用できると回答した方

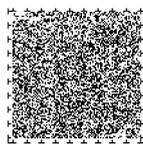
【公共交通機関を利用できない理由】※複数回答

公共交通機関を利用できない理由については「車両の乗り降りをする場所への移動や、車両に乗り降りをするための介助が必要」が最も多く、次いで「移動時に常に見守りの支援（知的障害や精神障害で一人での行動が難しく、危険回避のための支援など）が必要」が多くなっています。



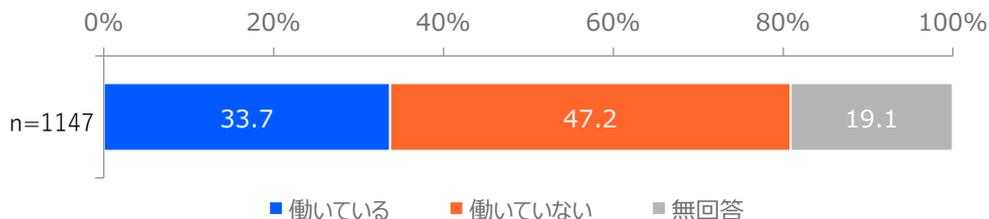
【子どもの療育・教育で困っていること】（保護者）※複数回答

子どもの療育・教育での困りごとについては、「今後の進学・進路選択で迷っている」が最も多くなっています。次いで「災害時や緊急時の対応に不安がある」「休養や息抜きの時間がない」と続いています。

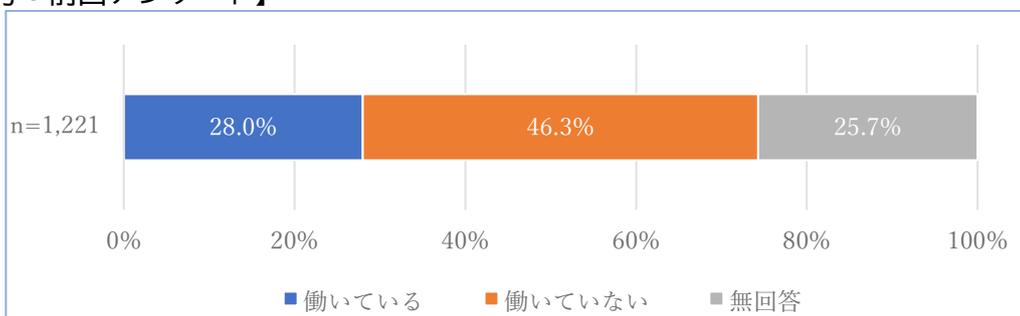


【現在働いているか】（18歳以上）

現在の就労状況については、「働いていない」が47.2%で最も多く、「働いている」は33.7%となっています。前回アンケートと比べると「働いている」は5.7ポイント増えています。

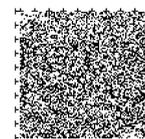


【参考：前回アンケート】



【成年後見制度を知っているか】

成年後見制度の認知については、「知っている」が39.0%、「知らない」が29.4%、「わからない」が11.7%、「無回答」が19.9%となっています。



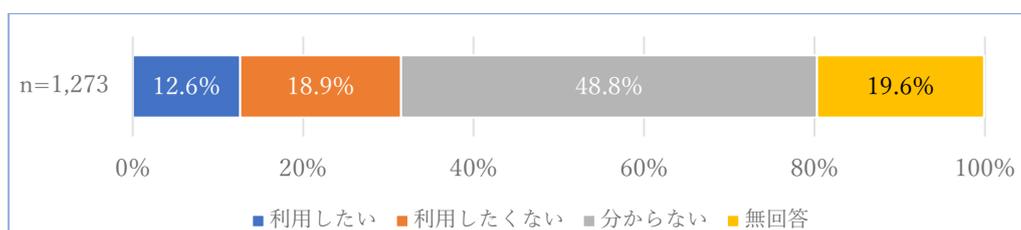
【成年後見制度を利用したいか】

成年後見制度の利用希望については、「利用したい」が9.2%、「利用したくない」が30.6%、「わからない」が36.3%と最も多くなっています。

前回アンケートと比較すると、「利用したくない」が増えています。



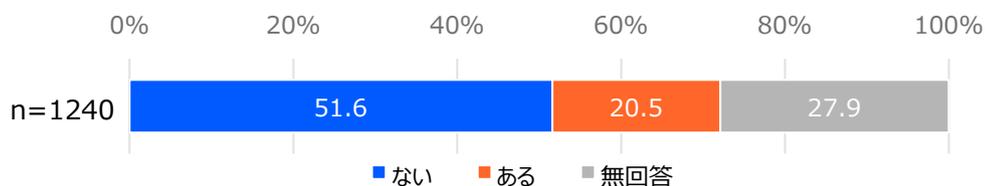
【参考：前回アンケート】



【差別を受けたりいやな思いをしたことがあるか】

障害を理由に差別やいやな思いをしたことがあるかについては、「ない」と回答した人は5割程度で、「ある」と回答した人は2割程度でした。

また、手帳の種類別にみると、療育手帳所持者で「ある」と回答した割合が最も多くなっています。



【参考：前回アンケート】

